

長崎市議会議員
堤 勝彦

「セントポール姉妹都市60周年公式訪問団」

出席および視察報告書（所感）

8月20日から25日の日程で、市長・議長に同行し、公式行事への出席視察をしてきましたので、ご報告申し上げます。

20日、長崎→羽田→成田から飛び立ち、翌日21日（現地）20日に、ミネアポリス・セントポール国際空港に到着。入国審査に2時間程かかったが、姉妹都市委員会の皆様が空港で出迎えてくれ、とても嬉しかった。

その後バスにてホテル到着。入国審査の遅れから、すぐに最初の行事「長崎市国際親善平和栄誉証贈呈式」へ急いで向かう。同ホテル内で開催されていたため助かった。

通訳を介して両市の挨拶などが交わされることから、海外での姉妹都市公式訪問を肌で感じた瞬間であった。

その後、姉妹都市委員会主催による夕食会に招いていただき、手作りのホットドッグやハンバーガー、更には手巻き寿司なども頂戴することができ、現地関係者皆様の温かさを感じた。

21日、9:00 ピースパイプセレモニーが市庁舎のビジョンオブピース像前にて、厳かに開催された。この像は、15mくらいあろうかという高さで、3階のテラス付近が顔であり、また、その設置されてある市役所庁内は、高級ホテルのロビーと間違えるくらいの豪華さで、驚かされた。

セレモニー終了後、クリス・コールマン市長を表敬訪問した際には、市長はじめ職員さんが、我々を温かく迎えてくれた。

表敬訪問後、ヒストリーセンターとセントトーマス大学を視察し、平和のシンボルである地球星座を見せていただいた。

夜は、初日同様、姉妹都市委員会の主催による夕食会に招いていただいたが、今回は広い店舗での食事会で、そのアメリカ的な広さとピザの食べ放題にも圧倒された。

22日、朝から、まずランドマークセンターで開催される「ヒロシマ・ナガサキ原爆展」のオープニングセレモニーに参列した。

昼には、セントポール市主催の公式昼食会に招いていただいた。途中、一緒に同行していた長崎検番の方々が、長崎の文化を披露し、会場の皆さんに大変喜んでいただいた。

昼食後、「ナガサキ通り」を見学後、姉妹都市交流貢献者顕彰式が執り行われるコモ公園に急いだ。

顕彰式終了後、同公園内にある日本庭園にて、松田正美記念碑除幕式に参加した。

夜になり、地元の野球チームであるセントポールセインツの試合を見学に行った。大雨に遭い、大変であったが、議長の始球式は何とか行うことが出来た。ちなみに、ナイスピッチングだったことは言うまでもない。そしてこの試合は、ナガサキデーという位置づけの試合で、何と選手のユニホームのロゴは、「セインツ」とカタカナで表記されていた。なんとも嬉しいもので、本市との親密さを感じた。

23日は、ツインシティ（双子市）として栄えて来たミネアポリス市にある、ミネアポリス美術館やミシシッピー川などを視察した後、昨日行ったコモ公園に戻り、日本祭りであるランタンライティングフェスティバル会場へと移動。会場には、15000人～20000人のお客さんが来場されていて、大変な賑わいを見せていた。各ブースは、現地の方々が出しており、剣道や空手などの武道の演武披露をしたり、きもの等を貸し出ししたり販売したりして、日本風大仮装大会が開催されているとも思われる雰囲気の中で、日本文化を紹介していた。

そしてステージでは、日系三世・四世の方々を中心に、和太鼓や日本の歌、盆踊りなどを披露し盛り上がっていた。

そのようなお祭り騒ぎの中、長崎検番も舞台へ上がり、長崎文化を披露した。我々議員も紹介していただき、私ら長崎人の「モッテコーイ」の掛け声で、会場は更に盛り上がり、現地の方々より「ブラボー」「素晴らしい」の嬉しい声を聞かせていただくことができて、本当にホッとした。

24日、いよいよ帰国の日。朝にセントポールホテルを出発し13:00過ぎの飛行機に乗り12時間半のフライトにて成田に到着した。その後、羽田から長崎へと乗り継ぎ、無事に長崎市内に帰って来られた。

今回の視察で一番感銘したことは、両市の友好関係が、70年、80年、90年、100年…とず～っと続いて行けるものと確信できるような、セントポールの方々から長崎へ対する関心があったことである。それを現す素晴らしいも

てなしにより、両市の人々の親密さを肌で感じる事ができた。

来月、長崎に訪問して下さる時は、是非ともてなし返しをしたいと思う。

最後にセントポールにて対応して下さった関係者の皆様に、心から感謝申し上げます、ご報告いたします。